



小諸市内で一番古い野馬取水源地。大正 10 年に小諸町連合保健衛生組合及び小諸町消防組合より、小諸町議会議長宛に水道敷設についての請願書が提出された。これを受け、大正 13 年に給水を開始した。

野馬取水源地の水は、坂の上配水池へ送水され、坂の上配水池では、1 日約 4,000m³の水が市街地を中心に配水される。大正 13 年に建物が竣工し、独特の洋風建築には、その当時の時代背景が伺える。

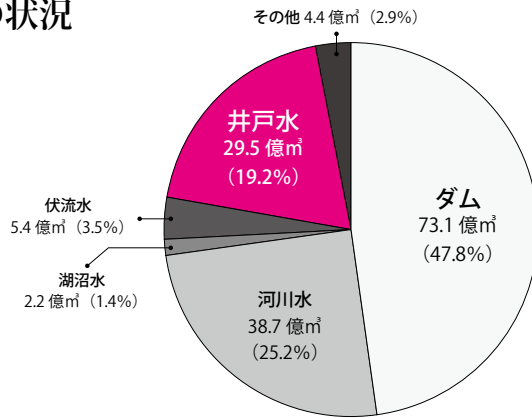


平成 27 年 4 月に、御牧ヶ原水道を統合し、以前は河川水を水源としていた一部の地域も、新大久保配水池の完成により湧水や深井戸からの水が供給されるようになり、小諸市のすべての水道水が天然水へと切り替わった。

日本の水道水源の状況

水道水源の種類
(平成 27 年度)

右の円グラフのとおり、井戸水のように地下水を水源としている割合は約 2 割で、小諸市のように、一つのまちすべてを地下水で賄う自治体は、大変希少です。



【硬度】
最大… 238 mg/ℓ
(南ヶ原配水池)
最小… 30 mg/ℓ
(西小諸配水池)

「小諸の水の性質」

また、地層を浸透していく過程でカルシウムやマグネシウムなどのミネラル分を蓄えていくため、小諸の水は天然のミネラルウォーターといえます。

日本の水道事業者の多くは、ダムや河川などの水を水源として水道水を供給しています(円グラフ参照)。これらの水には不純物や有害物質が含まれているため、塩素消毒をする前に、浄水場と呼ばれる施設で人工的にろ過を行う必要があります。小諸市の場合、このろ過作業が自然の中で行われています。

るほど良質な水質を有しています。